

神奈川県から発見された帰化植物ヌカイトナデシコについて

田中 徳久・勝山 輝男

Norihisa Tanaka and Teruo Katsuyama : A Naturalized Plant,
Gypsophila muralis L., Discovered from Kanagawa Prefecture

はじめに

帰化植物の区分には、自然帰化植物、逸出帰化植物、仮生(住)帰化植物、予備帰化植物、史前帰化植物などがある(浅井, 1993ほか)。帰化植物の多くは、日本への渡来時期が明瞭でないが、逸出帰化植物については、比較的明瞭である。しかし、これも有用植物として移入された時期についてであって、栽培状態から逸出し、野生化した時期については、不明瞭であることもある。また、逸出帰化であるか自然帰化であるかの判断が難しい場合も多々ある。本報では、最近、野生化が確認されたヌカイトナデシコ(*Gypsophila muralis* L.)について報告する。

経過

ヌカイトナデシコは、杉本(1978)により和名が与えられ、栽培種として記録されている。しかし、「最新園芸大事典2」(最新園芸大事典編集委員会編, 1968)には掲載されているものの、「園芸植物大事典2」(相賀徹夫編著, 1988)や「原色図譜園芸植物」(浅山ほか, 1971)などには掲載されておらず、栽培されているのもあまり見かけない。また、著者らの知る限り、伊藤ほか編著(1994)、藤原(1996)、青木章彦・野口達也責任編集(1996)など、各県の植物誌等にも記録がなく、これまでに野生化の報告はない。

今回、筆者らがヌカイトナデシコと同定した標本は、「神奈川県植物誌1988」(神奈川県植物誌調査会編, 1988)の改訂のための調査において、神奈川県植物誌調査会会員の吉川アサ子氏により川崎市麻生区で採集されたものである(KPM-NA 0101670 川崎市麻生区上麻生 1996年7月27日 吉川アサ子採集)。吉川氏によるとヌカイトナデシコは、造成中の空地に1株のみが生育していた。

また、その後、同会会員の後藤昭子氏により横浜市保土ヶ谷区でも採集された(KPM-NA0101674 横浜市保土ヶ谷区上菅田 1996年8月20日 後藤昭子採集)。後藤氏によると、道路に面した植込に2株が生育していた。

形態

ヌカイトナデシコ(*Gypsophila muralis* L.)は、ヨーロッパ原産の植物で、Tutin *et al.* (1964)やClapham *et al.* (1987)などに記載があり、Bonnier & Douin (1990)に原色図が掲載されている。これらと杉本(1978)、および前述の2点の標本を参考にし、ヌカイトナデシコの形態等の特徴を記述する。

ヌカイトナデシコ：一年草。茎は高さ約10cmで、よく分枝し、直立する(図1-A)。葉は対生し、線形で、長さ5-10mm、幅約0.5mm。托葉は膜質で左右のものが合着する(図1-B)。萼は筒状に合着し、長さ2-3mm、先は5裂、花弁は萼より長く、ピンク色(図1-C)。種子は直径約0.5mm、表面に浅い皺状の模様が多数ある(図1-D, 図2)。

まとめにかえて

今回報告したヌカイトナデシコについては、後藤氏は近隣のフラワーショップで販売されているのを見かけており、神奈川県立生命の星・地球博物館の高橋秀男氏は長野県小谷村で栽培しているのを確認している。一方、ナデシコ科の種子は、丸く小さいため、緑化用のシロツメクサ種子などに混入しやすく、実際に市販されているシロツメクサ種子には、多数のナデシコ科のものと思われる種子が発見できる。そのため、今回報告したヌカイトナデシコについても、栽培されていたものが逸出したものか、シロツメクサ種子とともに移

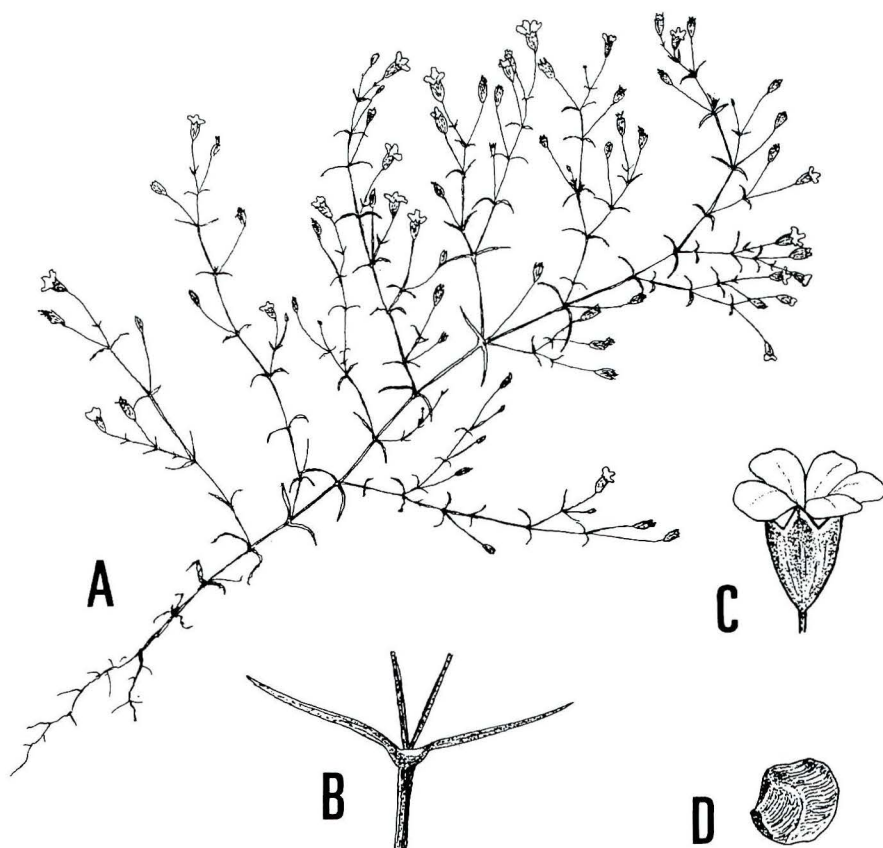


図1 ヌカイトナデシコ A: 全形(×1) B: 茎の一部(×5) C: 花(×5) D: 種子(×30)

入された自然帰化によるものかは判断できない。しかし、そのいずれにせよ、ヌカイトナデシコの野生状態での生育を記録することは、今後の分布拡大の可能性も考慮し、基礎資料として重要であると考ええる。

謝辞

報告を終えるにあたり、報告のもととなったヌカイトナデシコを発見され、標本を採集された神奈川県植物誌調査会の吉川アサ子氏に厚くお礼申し上げます。また、標本と情報を提供頂いた同会会員の後藤昭子氏と神奈川県立生命の星・地球博物館の高橋秀男氏、電子顕微鏡による種子の撮影にご協力頂いた同博物館の木場英久氏に感謝の意を表する。

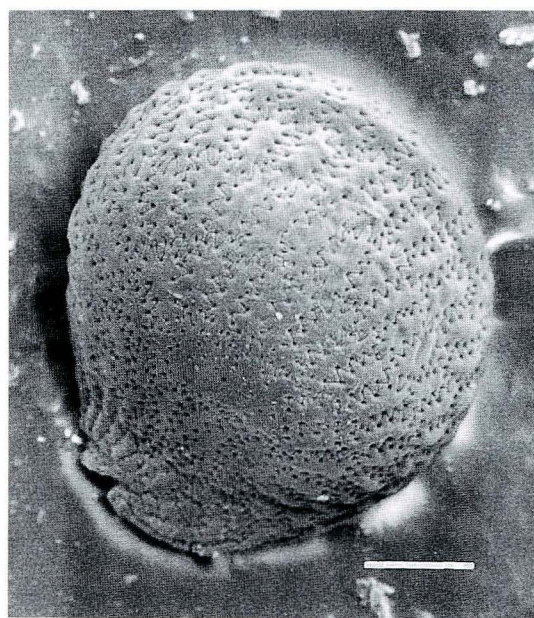


図2 ヌカイトナデシコの種子(スケールは100 μm)

文献

相賀徹夫(編著), 1988. 園芸植物大事典2. 614pp. 小学館, 東京.

青木章彦・野口達也(責任編集), 1996. 栃木県植物目録 1996. 252pp. 栃木県植物研究会, 宇都宮.

浅井康宏, 1993. 緑の侵入者たち, 帰化植物のはなし. 294pp. 朝日新聞社, 東京.

浅山英一・太田洋愛・二口善雄, 1971. 原色図譜 園芸植物. vii+638pp. 平凡社, 東京.

Bonnier Gaston & Douin Robert, 1990. La Grande Florae en Couleurs de Gaston Bonnier, Vol. 1. 25pp+467pls.. Institut National de la Recherche Agronomique, Paris.

Clapham, A. R., Tutin, T. G. & Moore, D. M., 1987. Flora of the British Isles, Third Edition. xxviii+688pp. Cambridge University

Press, Cambridge.

藤原陸夫, 1996. 秋田県植物目録, 第8版. 10+186pp. 秋田植生研究会, 秋田.

伊藤浩司・日野間彰・中井秀樹(編著), 1994. 環境調査・アセスメントのための北海道高等植物目録 離弁花植物. 480pp. たくぎん総合研究所, 札幌.

最新園芸大事典編集委員会(編), 1968. 最新園芸大事典2. 489-1030pp. 誠文堂新光社, 東京.

杉本順一, 1978. 改訂増補 日本草本植物総検索誌 I 双子葉編. 871pp. 井上書店, 東京.

Tutin, T. G., Heywood, V. H., Burges, N. A., Valentine D. H., Walters, S. M. & Webb, D. A.(eds), 1964. Flora Europaea, Vol.1. 464pp. Cambridge University Press, London.

(神奈川県立生命の星・地球博物館)